

第14巻第2号<通巻73号> 平成16年(2004年)3月30日発行

ISSN 0917-821 X

# 緑の地球

73

Vol.14 -2



財団法人  
国際緑化推進センター



# 生物多様性条約第7回締約国会議でクアラルンプール宣言採択

生物多様性条約第7回締約国会議が2月9日、20日、マレーシアのクアラルンプールで開催され、160カ国以上から23000人が参加した。今回合合では、▼山岳の生物多様性▼保護地域▼技術移転と技術協力などを主要議題に議論が行われた。

このうち、「山岳の生物多様性」「保護地域」については、2010年までに生物多様性の損失を減少させるという目標を達成するために、各国や国際機関が取り組むべき活動を示した作業計画がそれぞれ採択された。この他、生物多様性の構成要素を持続可能に利用するための14の原則と実施指針、生物多様性とツーリズムの開発に関する指針なども採択された。遺伝資源の適切な利用と衡平な利益配分を目指した国際的な枠組づくりについても議論され、次回締約国会議までに、法的拘束力の有無も含めその具体的な内容を作業

部会で検討することが決まった。終盤の2月18日、19日には閣僚級会合が開かれ、120カ国以上から参加。「科学的評価の役割」、「遺伝資源へのアクセスと利益配分」、「技術協力・技術移転」について意見交換を行い、最終的に「クアラルンプール宣言」を採択した。同宣言には、保護地域ネットワークの創設、遺伝資源へのアクセスと利益配分に関する国際的体制の構築、またバイオセ

ーフティに関するカルタヘナ議定書発効歓迎の表明などが含まれている。次回第8回締約国会議は、06年にブラジルにおいて、島嶼生態系を主要議題として開催される。なお、同宣言にも触れられたカルタヘナ議定書（03年に発効した遺伝子組換え生物の取扱いに関する国際的枠組を規定した議定書）の第1回締約国会議が、2月23日、27日にクアラルンプールで開催された。

## JICAがラオスで森林管理・住民支援プロジェクト開始

国際協力機構（JICA）が2月、ラオスで新規林業協力プロジェクト「森林管理・住民支援計画」を立ち上げた。北部地域で、住民参加による森林管理活動の普及を目指したモデルづくりを行う。

ラオスは国土の8割が山岳地帯。焼畑移動耕作、不法伐採、貧困による土地の他用途転用などにより、1940年時点で70%だった森林率が、89年には47%にまで低下した。ラオス政府は2020年までに同

80%への回復を目指すとし、制度を整えつつあるが、計画推進の要となる村落森林管理については、地方府の技術的水準や予算不足の問題から十分な活動が行われていない。

JICAはそのための支援として、すでに96年から03年まで、中部ビエンチャン県で住民参加による森林保全・普及事業を実施。地域住民の意識調査をもとに、生活上とともに焼畑の減少などが実現されるような活動の導入・普及を目指し

森林管理計画のモデル策定や人材育成などを行ってきた。

今回のプロジェクトは、同様の森林管理計画を北部地域において普及するためのもの。北部山岳地帯は国内でも貧困の度合いが高く、焼畑移動耕作も集中的に行われていることで知られている。プロジェクトでは、まず対象地域で現状調査を行い、モデル村落を選定する。モデルとなった村の住民たちにより森林資源状況の把握や森林管理の活動が行われ、

周辺住民にその成果が披露される。

また、対象地域で組織体制などの調査を行い、グループ別に研修を実施する。研修を受講した住民組織などから提出された活動提案を選定し、「住民支援活動」を行う。森林管理計画や普及制度に関する具体的な実施マニュアルを作成し、提言を行う。事業のラオス側実施機関は、農林省農林業普及局。日本側協力機関は林野庁。協力期間は、04年2月、09年1月。

## 違法伐採・違法木材貿易に対する欧州の取り組み

違法伐採および違法木材貿易は世界の森林減少に拍車をかけ、木材資源に依存している住民にも大きな影響を与えている。世界銀行は、違法伐採により途上国が毎年100億、150億ドルの損失を蒙っていると推定しており、途上国の貧困撲滅に必要な財政にも打撃を与えている。

わが国はITTOなど国際機関を通じて活動のほか、個別にも03年のインドネシアとの共同発表・行動計画などを通じ違法伐採対策に取り組んでいるが、欧州も同問題に対し積極的な対策を進めている。

オランダは、2月のクアラルンプールでの生物多様性条約第7回締約国会議の期間中、マレーシアと違法木材貿易対策への協力で合意した。オランダの木材認証システム（05年導入予定）の実施可能性をテストするために、マレーシアでパイロット事業を実施する。（オランダ住宅・国土計画・環境省）

欧州委員会は03年5月、増加する違法伐採と違法取引に対処するため、「森林法の施行、統治および貿易に関する行動計画」を発表している。行動計画には、木材生産国にお

ける統治の改善、EU市場への持ち込みを合法木材のみとするための木材生産国との自主的な協力関係の構築、違法伐採木材貿易に対処するための国際協力体制の強化などが盛り込まれている。具体的な行動としては次のようなものが提案されている。

▼合法伐採木材であることを認証するシステムの構築を支援  
▼EU向け輸出木材の合法性を証明する許可証を発行するような自主的認可システムの導入  
▼公共調達における合法木材特定の指針となる政策

## 02年の世界のCO<sub>2</sub>濃度、産業革命前の1.34倍

気象庁は3月、国内および世界の大気中二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）濃度と北西太平洋の海洋中CO<sub>2</sub>濃度の最新状況を発表し、いずれも引続き増加傾向にあることを明らかにした。

気象庁が国内3地点で観測している日本上空の大気中CO<sub>2</sub>濃度の03年平均濃度は376.6、378.6ppmで、前年と比べ2.7、2.8ppm増加。2年連続の2p

pm以上の増加となったが、これは02年、03年の世界の地上気温が、1880年以降では1998年に次いで第2位、3位の高温となったことと関係していると考えられている。

また、気象庁が収集した世界の観測結果の解析によれば、全球大気中CO<sub>2</sub>濃度の02年平均濃度は374ppmで、前年と比べ1.8ppmの増加。18世紀後半の産業革命以前

の濃度（約280ppm）より34%増加していることになる。

一方、気象庁が日本近海から赤道域に至る北西太平洋で行っている海洋CO<sub>2</sub>の冬季観測結果によると、03年の洋上大気中CO<sub>2</sub>濃度は、02年と比べ2.8ppm増加。表面海水中のCO<sub>2</sub>濃度は、02年より11.8ppm増加の353ppmで、これまでの観測の最高値を記録した。

### ●73号—目次●

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 国際緑化ニュース                        | 1  |
| レポート＜吸収源CDM国際フォーラム＞             | 3  |
| 特集＜2004年度NGO主催の海外植林ボランティア派遣紹介＞  | 5  |
| プロジェクト追跡                        | 7  |
| ＜地球の友と歩む会：インドネシアにおける緑化事業＞       |    |
| ユニークな施設の活動紹介＜東京都板橋区立熱帯環境植物館＞    | 9  |
| ワールドレポート＜ブルキナファソ＞               | 11 |
| センターの活動／その他の情報／基金へのご協力          | 13 |
| 平成16年度国際緑化推進センターNGO支援事業助成申請のご案内 | 14 |



# ●国際緑化推進センター主催：吸収源CDM国際フォーラム

## 吸収源CDM実現に向けたホスト国・投資国の取組を紹介

— 日本、インドネシア、ミャンマー、ベトナム、CIFORから参加 —

先進国などの温室効果ガス削減を規定した京都議定書において、国内措置を補完する仕組みとして盛り込まれているクリーン開発メカニズム(CDM)。その内の「吸収源CDM」

は、先進国が途上国と協力して植林による二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)吸収プロジェクトを途上国で実施し、そこで得られたCO<sub>2</sub>吸収分の一部を自国の削減に充当できる仕組み。途上国にとっても、持続可能な森林経営の促進や環境改善を助け、社会経済的な効果が期待されるもの。

昨年12月に開催された気候変動枠組条約第9回締約国会議(COP9)では、吸収源CDMの実施細則が確定された。小規模吸収源CDMの簡素化ルール・手続きについてはCOP10で決定されることになっている。こうした情勢のもと、国際緑化推進センターでは、2月26日、東京千代田区のホテル・メトロポリタン・エドモントにおいて、「吸収源CDM国際フォーラム」を開催した。今回は、吸収源CDM実現に向けて、事業のホスト国側、投資国側双方が進める取組を紹介し、同時にその可能性と課題について意見交換するの

が目的。講師として出席したのは次の各氏。国際林業研究センター(CIFOR)からダニエル・ムルディヤルソ博士、研究官、インドネシアから西ヌサテングラ州森林局バデルン・ザイナル局長、ミャンマーから中央林業開発研究所ウー・ミン・アウン所長、ベトナムから農業・地域開発省林業開発局調査課ブイ・チン・ニア課長補佐、わが国から林野庁計画課の永目伊知郎調査官、海外産業植林センターの田野岡章専務理事。また、早稲田大学人間科学部の天野正博教授がパネル討論の座長を務めた。

受講者は約80名。国際緑化推進センターによるCDM植林人材育成研修に参加中の研修生(国内・途上国)も、学習の一環として参加した。発表の先頭に立ったCIFORのダニエル・ムルディヤルソ博士は、小規模吸収源CDM推進に向けて、間接経費の問題、南米における共同

リープを設立して開始したばかり。年内に基準・指標を確定するとともに、一般への概念普及に努めるなど取組の方向性を示した。

日本側の発表では、政府代表の一員としてCDMを巡る国際交渉に参加してきた林野庁の永目伊知郎氏が、COP9で決定された吸収源CDMの実施細則について説明。この中で、従来の産業植林に適当な土地においては、CDM成立の要件「追加性」(通常の事業に追加的であることを示す要素)を満たしていくのではないのかとの個人的解釈を示した。

た田野岡章氏は、日本企業による海外産業植林の現状と吸収源CDMにおける期待と問題点について発表。各社合わせた02年までの植林実績は、オーストラ

リアなど先進国を中心とした事業地に約36万ヘクタール。産業植林は一定の条件のもと、荒地などで紙パルプ等用材の植林を行い、通常7年毎に伐採、再植林を繰り返す持続的森林経営を行うもの。ホスト国も雇用増大やインフラ整備などの便益があるが、リスクとして移入種による生態的影響などがある。投資側も土地利用計画や税制の変更、経済的リスクなどがあるが、途上国事業地の最大の問題は用地の権利や登記の複雑さ。産業植林CDM実現の期待の一つとして、同問題に対するホスト国側の積極的協力の可能性を挙げた。また、環境植林と産業植林を区別することなくCDMを適用し、荒地や放牧跡地の回復を行うことは、温暖化対策として意義のあることと強調した。

天野教授の司会で行われたパネル討論では、小規模吸収源CDMを巡って意見交換した。間接経費の軽減には仲介者の活用が効果的、多様な関係者が存在するため不確実性への対応も必要、候補地として住民参加実績のあるところを選ぶと成功しやすい、などの意見が出された。

なお、フォーラムの内容は、国際緑化推進センターが印刷物として取りまとめる予定。



パネル討論



ブイ・チン・ニア氏(ベトナム国農業・地域開発省林業開発局調査課課長補佐)



ダニエル・ムルディヤルソ博士(CIFOR上席研究官)



永目伊知郎氏(林野庁計画課調査官)



バデルン・ザイナル氏(インドネシア国西ヌサテンガラ州森林局局長)



田野岡章氏(海外産業植林センター専務理事)



ウー・ミン・アウン氏(ミャンマー国中央林業開発研究所所長)



天野正博博士(早稲田大学人間科学部教授)



| 植林ボランティアに関する詳細やお申し込みは、各主催団体にお問い合わせください |                                                                                                                                         |                    |                    |          |                            |           |                |
|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|--------------------|----------|----------------------------|-----------|----------------|
| 主催団体名                                  | お問い合わせ先                                                                                                                                 | ツアー名               | 行き先                | 参加人数     | 日程                         | 申込締切日     | 参加費用           |
| 緑化ネットワーク                               | 〒103-0027 東京都中央区<br>日本橋 2-16-3 加藤ビル 4A<br>TEL&FAX: 03-3517-5805<br>Eメール:k@green-network.org<br>http://www.green-network.org/            | 第12次「緑化隊の旅」        | 中国内モンゴル            | 20       | 5/2~5/8 (7日間)              | 1ヵ月前      | ¥178,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | 第13次「緑化隊の旅」        | 中国内モンゴル            | 20       | 6/12~6/18 (7日間)            | 1ヵ月前      | ¥148,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | *第14次「緑化隊の旅」       | 中国内モンゴル            | 20       | 6/16~6/20 (5日間)            | 1ヵ月前      | ¥145,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | 第15次「緑化隊の旅」        | 中国内モンゴル            | 20       | 6/26~7/3 (8日間)             | 1ヵ月前      | ¥158,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | *第16次「緑化隊の旅」       | 中国内モンゴル            | 20       | 7/21~7/25 (5日間)            | 1ヵ月前      | ¥155,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | 第17次「緑化隊の旅」        | 中国内モンゴル            | 20       | 7/24~7/31 (8日間)            | 1ヵ月前      | ¥168,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | 第18次「緑化隊の旅」        | 中国内モンゴル            | 20       | 8/7~8/14 (8日間)             | 1ヵ月前      | ¥182,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | *第19次「緑化隊の旅」       | 中国内モンゴル            | 20       | 8/25~8/29 (5日間)            | 1ヵ月前      | ¥155,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | 第20次「緑化隊の旅」        | 中国内モンゴル            | 20       | 9/4~9/11 (8日間)             | 1ヵ月前      | ¥172,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | 第21次「緑化隊の旅」        | 中国内モンゴル            | 20       | 9/18~9/24 (7日間)            | 1ヵ月前      | ¥160,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | *第22次「緑化隊の旅」       | 中国内モンゴル            | 20       | 9/22~9/26 (5日間)            | 1ヵ月前      | ¥155,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | 第23次「緑化隊の旅」        | 中国内モンゴル            | 20       | 10/5~10/11 (7日間)           | 1ヵ月前      | ¥158,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | 第24次「緑化隊の旅」        | 中国内モンゴル            | 20       | 10/13~10/19 (7日間)          | 1ヵ月前      | ¥158,000       |
|                                        |                                                                                                                                         | (*名古屋発着。他は成田・関空)   |                    |          |                            |           |                |
| 国際環境NGO<br>FoE Japan                   | 〒171-0031 東京都豊島区目黒<br>3-17-24 総合設計機構ビル2階<br>TEL: 03-3951-1081<br>FAX: 03-3951-1084<br>Eメール:wada@foejapan.org<br>http://www.foejapan.org | 春の緑化協力隊<br>夏の緑化協力隊 | 中国内モンゴル<br>中国内モンゴル | 20<br>20 | 4/29~5/4 (6日間)<br>8月 (6日間) | 4/8<br>未定 | ¥155,000<br>未定 |

(高校生以上は緑化協力金1~3万円別途)

●(社)アジア協会協会アジア友の会  
アジアに井戸を贈る運動として1979年に活動開始。アジア18カ国35提携団体ネットワークを形成。植林活動強化を図って02年に「水源の森」計画を開始した。植林実績は約173万本。

●財オイスカ  
80年からアジア太平洋地域での緑化を推進。学校単位で子供たちが取り組む森づくり運動「子供の森」計画の参加校は現在24の国・地域の約2800校。毎年1500名以上の植林ボランティアを派遣する。募集詳細はホームページに随時掲載。

●特活 観照ボランティア協会  
5年前からフィリピンのケン州インファンタで、炭焼きの技術移転と、炭・木酢液を活かした植林事業を行っている。

●(特活) 沙漠植林ボランティア協会  
中国内モンゴルで沙漠森林農牧場づくりを展開中。お盆に100本の木を植え、草も育てて農牧民の所得向上をめざす。1口5万円で苗木

の親となり農牧民に育ててもらう里親基金を日本で募って支援している。

●タンザニア・ボレボクラブ  
タンザニアで村人の取り組み植林活動や生活改善などを支援。キリマンジャロ山麓テマ村での植林ワークキャンプでは手工芸品実習やコーヒー畑視察も行う。募集開始は10月だがすぐに定員となるため、事務局では早めの資料請求を薦めている。

●特活 地球の友と歩む会  
インドネシア・スンバ島で、86年より活動を開始。給水や農業支援と併せた住民参加型の植林事業を行っている。植林ワークキャンプは夏・春の2回実施。

●特活 ヒマラヤ保全協会  
ネパールのミヤグダイ郡で村人による苗畑運営・植林を支援している。「学びあいうツアア」は、カトマンドゥー近郊でホームステイし、村人との交流や植林を行う。「エコロジースクール」は、ミヤグダイ郡でホームステイし、トレッキングや植林の他、山村の暮らしや問題について村人と共に考え学ぶ。

●財 日本産業開発青年協会  
中国のクブチ沙漠およびオルドス台地で12年間緑化活動を行っている。とくにオルドスでの実績は中国で高い評価を獲得。植樹団は現地高校生と共に植林する。

●特活 緑の地球ネットワーク  
中国山西省大同市の黄土高原で緑化協力を展開中。小学校付属果樹園は農民の貴重な収入源となっている。植物園や実験林場で技術者を育成。環境林センターでは灌漑用水確保のために汚水処理施設を建設、水不足に悩む当地で注目を集めている。

●緑化ネットワーク  
中国内モンゴルホレン沙漠でこれまで4年間で7000畝、約230万本の植林を実施。植林ボランティアツアーでは、「ただ植えるだけではない」総合的な緑化体験を提供する。

●FoE Japan  
01年より中国内モンゴルホレン沙漠で緑化活動を開始。20年計画の「地球の友の森」造成事業に取り組んでいる。緑化協力隊の派遣は春・夏の2回。

| 2004年度 NGO主催の海外植林ボランティア派遣紹介 (50音順) |                                                                                                                                                                                                                |                                                                                           |                                                     |                                  |                                                                                                              |                                                    |                                                                      |  |  |  |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 主催団体名                              | お問い合わせ先                                                                                                                                                                                                        | ツアー名                                                                                      | 行き先                                                 | 参加人数                             | 日程                                                                                                           | 申込締切日                                              | 参加費用                                                                 |  |  |  |
| (社) アジア協会<br>アジア友の会                | 〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-2-16 山下ビル4階<br>TEL: 06-6444-0587<br>FAX: 06-6444-0581<br>Eメール: asia@jafs.or.jp<br>http://www.jafs.or.jp/                                                                                  | インドネシア交流キャンプ<br>フィリピン・スタディーツアー<br>インド交流キャンプ<br>ネパール・ワークキャンプ<br>スリランカ交流キャンプ<br>フィリピン交流キャンプ | インドネシア<br>フィリピン<br>インド<br>ネパール<br>スリランカ<br>フィリピン    | 15<br>15<br>15<br>15<br>15<br>15 | 4/30~5/6 (7日間)<br>5/21~5/24 (4日間)<br>7/21~8/4 (15日間)<br>7/25~8/3 (10日間)<br>8/1~8/7 (7日間)<br>12/25~1/3 (10日間) | 約1ヵ月前<br>約1ヵ月前<br>約1ヵ月前<br>約1ヵ月前<br>約1ヵ月前<br>約1ヵ月前 | ¥210,000<br>¥110,000<br>¥245,000<br>¥230,000<br>¥210,000<br>¥200,000 |  |  |  |
| (財) オイスカ                           | 〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-17-5<br>TEL: 03-3322-5161<br>FAX: 03-3324-7111<br>Eメール: oisca@oisca.org<br>http://www.oisca.org/                                                                                          | フィリピン北部ルソン植林<br>スリランカ植林<br>第23回日・タイ友好植林<br>ボルネオ・ワークキャンプ<br>インドネシア植林                       | フィリピン<br>スリランカ<br>タイ<br>マレーシア<br>インドネシア             | 30<br>20<br>50<br>20<br>30       | 7/22~7/27 (6日間)<br>8月下旬 (1週間)<br>9/1~9/9 (9日間)<br>9月初旬(10~14日間)<br>11月下旬 (1週間)                               | 1ヵ月前<br>1ヵ月前<br>1ヵ月前<br>1ヵ月前<br>1ヵ月前               | 未定<br>未定<br>未定<br>未定<br>未定                                           |  |  |  |
| (特活)観照ボランティア協会                     | 〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-16-16 城和ハイツ305<br>TEL&FAX: 03-3399-2051<br>Eメール: miki_minoru@yahoo.co.jp                                                                                                                  | フィリピン植林ボランティアツアー                                                                          | フィリピン                                               | 20                               | 6月下旬 (1週間)                                                                                                   | 1ヵ月前                                               | ¥170,000                                                             |  |  |  |
| (特活)沙漠植林ボランティア協会                   | <本件については本部でなく以下へ><br>〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-5-15 横山ビル3階<br>日本エコプランニング<br>TEL: 03-5807-1691<br>FAX: 03-5807-1692<br>Eメール: jeps@jeps.co.jp<br>http://www.kurikoma.or.jp/<br>timamura@kinokai/sabaku/houkoku.html | 第43次「植林協力隊」<br>第44次「植林協力隊」<br>第45次「植林協力隊」<br>第46次「植林協力隊」<br>第47次「植林協力隊」                   | 中国内モンゴル<br>中国内モンゴル<br>中国内モンゴル<br>中国内モンゴル<br>中国内モンゴル | 25<br>25<br>25<br>25<br>25       | 5/20~5/25 (6日間)<br>6/12~6/19 (8日間)<br>7/28~8/4 (8日間)<br>8/17~8/24 (8日間)<br>9/10~9/16 (7日間)                   | 1ヵ月前<br>1ヵ月前<br>1ヵ月前<br>1ヵ月前<br>1ヵ月前               | ¥158,000<br>¥182,000<br>¥189,000<br>¥187,000<br>¥176,000             |  |  |  |
| タンザニア・ボレボクラブ                       | 〒107-0062 東京都港区南青山6-1-32-103<br>TEL&FAX: 03-3439-4847<br>Eメール:pole2club@hotmail.com<br>http://pole2club.infoseek.livedoor.com/                                                                                 | タンザニア・キリマンジャロ植林ワークキャンプ2005                                                                | タンザニア                                               | 20<br>20                         | 2005年2月中旬~3月初旬(3週間)                                                                                          | 12月 (募集開始は10月)                                     | 約¥300,000                                                            |  |  |  |
| (特活)地球の友と歩む会                       | 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2東京三和ビル501<br>TEL: 03-3261-7855<br>FAX: 03-3261-9053<br>Eメール: life@earth.email.ne.jp<br>http://www.ne.jp/asahi/life/home/                                                              | インドネシア・スンバ島植林ワークキャンプ<br>インドネシア・スンバ島植林ワークキャンプ                                              | インドネシア<br>インドネシア                                    | 15<br>15                         | 8月下旬~9月中旬(約16日間)<br>2005年2月中旬~3月上旬(約16日間)                                                                    | 1ヵ月前<br>1ヵ月前                                       | 一般 ¥240,000<br>学生 ¥230,000<br>一般 ¥240,000<br>学生 ¥230,000<br>(以上、予価)  |  |  |  |
| (財) 日本産業開発青年協会                     | 〒160-0013 東京都新宿区霞丘町15 日本青年館内<br>TEL: 03-3475-2541<br>FAX: 03-5410-2729<br>Eメール: seinenkyokai@seinenkyokai.or.jp<br>http://www.seinenkyokai.or.jp/                                                              | 植樹訪中国<br>植樹訪中国<br>植樹訪中国                                                                   | 中国<br>中国<br>中国                                      | 20<br>20<br>20                   | 7/17~7/22 (6日間)<br>9/17~9/22 (6日間)<br>10/17~10/22 (6日間)                                                      | 35日前<br>35日前<br>35日前                               | ¥170,000前後<br>¥170,000前後<br>¥170,000前後                               |  |  |  |
| (特活)ヒマラヤ保全協会                       | 〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-5-7-403<br>TEL: 03-5350-8458<br>FAX: 03-5350-8459<br>Eメール: ihc@par.odn.ne.jp<br>http://www.ngo.gr.jp/ihc                                                                                  | 生活体験・学びあいツアー<br>ネパール山岳エコロジースクール                                                           | ネパール<br>ネパール                                        | 15<br>15                         | 8月上旬(約1週間)<br>2005年3月上旬~中旬(約2週間)                                                                             | 1ヵ月前<br>1ヵ月前                                       | 一般 ¥228,000<br>学生 ¥218,000<br>一般 ¥280,000<br>学生 ¥260,000<br>(以上、予価)  |  |  |  |
| (特活)緑の地球ネットワーク                     | 〒552-0012 大阪市港区市岡 1-4-24住宅情報ビル5階<br>TEL: 06-6576-6181<br>FAX: 06-6576-6182<br>Eメール: gentree@vc.kcom.ne.jp<br>http://member.nifty.ne.jp/gentree/                                                                | 夏の黄土高原ワーキングツアー                                                                            | 中国山西省                                               | 30                               | 8月下旬(8日間)<br>(予定)                                                                                            | 1ヵ月前                                               | 一般 ¥195,000<br>学生 ¥185,000<br>(予価。年会費含む)                             |  |  |  |

注: (特活)は特定非営利活動法人の略





教会を通しての植林活動



植林の収穫物（カシューナッツ）

⑤発展性  
人材育成を含む  
教会の緑化部  
を中心に育苗技術  
を移転し、利用者  
から返還された種  
から苗を作る。そ  
の回転により持続  
性を確保する。

た、すでに自立して緑化事業を継続  
していける体制が整ったために支援  
を完了した事業地も出てきている。

**教会を通じた緑化事業の展開へ**

これまでの活動を通じた経験と助  
成団体など関係者の提案をもとに、  
半乾燥地域であるスンバ島における  
持続可能な緑化事業の戦略が固まっ  
てきた。スンバ島の住民の大多数は  
キリスト教徒で、島内には80以上の  
教会があり、それぞれ300〜60

住民は自分たちの生活に利益  
があるとの確信があつてこそ  
活動に参加する。樹種の選定  
についても村人の希望を積極  
的に取り入れて、比較的短期  
で収穫が見込まれる果樹など  
を中心に配布するなど、参加  
意欲の向上を促す。

④持続性  
教会利用者へ苗木の配布を行い、  
数年後にそれぞれの収穫から苗や種  
を教会へ倍以上にして返還してもら  
う。教会の緑化部  
を中心に育苗技術  
を移転し、利用者  
から返還された種  
から苗を作る。そ  
の回転により持続  
性を確保する。

0世帯が利用している。教会を通し  
て緑化事業を展開することで、より  
効果的かつ広範囲な活動の普及が可  
能となる。その際に留意すべき点と  
して、主に次の6点が挙げられる。

①生活環境改善の視点  
植林に対する意識の低い島民が主  
体的に植林に参加するようになるの  
を促進するには、人々の生活を第一  
として、生活環境の改善という視点  
から取り組む必要がある。生活用水  
の確保すらも困難な地域での植林  
は、植栽後の管理も重労働であり、

②環境保護意識の強化  
苗木の配布と同時に、薪炭材の植  
林を義務化し、種子などを周辺地域  
から収集して未利用の丘などに植栽  
する。また、島の原生種である白檀  
の植林も奨励する。環境教育も併せ  
て行い、16種存在すると言われている  
スンバ島の固有種をはじめ貴重な  
森林を保全していく重要性を啓発し  
ていく。

③効率的な事業運営  
各教会の緑化部が日々の植林活動  
を運営管理し、ミサなどの集会の後  
に情報提供や植林作業を行う。また、  
MBDスタッフは定期的に各事業地  
を訪れて、事業管理と必要なサポー  
トを行う。

組織強化を行い、活動体制や内容の  
進化・発展を促進する。そのために  
研修やワークショップで能力開発に  
努め、受益者自身による計画策定か  
ら評価までを行っていく。

⑥普及性  
教会所有地での植林を活動のモデ  
ル地とし、参画者を増やしていく。  
育った木から恵みを受けられるよう  
になれば、植林活動の利益がおのず  
と周囲にも認知・実感され、広範囲  
に普及していく。

## 今後の展望

今後の計画としては、モデルケー  
スをもとに持続可能な緑化事業の戦  
略を確立し、ガイドラインを作成す  
る。そして島内の他地域でも広く展  
開していく。常に現場の声を柔軟に  
取り入れ、地域に根ざしたより効果  
的な緑化活動へと発展させていくこ  
とを目指している。

いつかスンバ島が元の「白檀の香  
り漂う緑の島」に戻り、自然と共存  
した豊かな生活が実現されることを  
信じ、これからも島の人々と一緒に  
活動を続けていきたい。

文Ⅱ武藤香織（特定非営利活  
動法人地球の友と歩む会事務局）

## ☆プロジェクト追跡☆

### インドネシア・スンバ島で緑化事業

#### （特活）地球の友と歩む会

## 教会を核としたモデル事業から緑化の普及を図る

地球の友と歩む会（LIFE II  
Live with Friends on the Earth）が緑化  
事業を行っているスンバ島は、イン  
ドネシアの中で最も乾燥した貧しい  
地域といわれる東ヌサトゥンガラ州  
にある。約1万1000平方キロの  
面積に約50万人が暮らしており、多  
くは農業、漁業、牧畜などで生計を  
立てている。かつては白檀の島と呼  
ばれ、豊かな原生林に覆われていた  
が、長年にわたる過剰な伐採や放牧、  
焼畑などにより激減した。この70年  
間に失われた森林は約4000平方  
キロ、現在の森林被覆率は8%程度  
といわれる。森林の急減は水源の枯  
渇や土壌流出による土地の荒廃を招  
き、生活資源を森林に頼ってきた島  
民の生活に深刻な影響を与えている。

こうした状況を受け、本会では1  
992年からこのスンバ島におい  
て、水・緑・人に複合的に働きかけ、  
そこに暮らす人々の生活環境を向上  
させながら（水源や土壌の保護、森  
林資源の回復、栄養改善、収入向上  
等）、自然環境を育む活動を行って  
いる。

#### 持続可能な緑化推進事業

2000年からは（社）国土緑化

推進機構の「緑の募金公募事  
業」の助成を受け、「持続可能  
な緑化推進事業」を進めてい  
る。住民自身の自立により、  
自ら緑化を継続しながら自  
然・生活環境を向上させてい  
くことを最終目標に、モデル  
ケースづくりに努めてきた。

現地NGOのMitra Bina Daya  
（以下MBD）を協力団体とし  
て、この3年半に島内8地域  
の住民グループや教会を通じて、  
約19万本が参加住民の農林地、  
水源かん養地、教会やその他  
の共有地に植林された。樹種  
は、コーヒー、ココヤシ、カ  
シューナッツ、バナナ、オオ  
バマホガニー、チーク、キダ  
チヨウラク、グリリシディア  
（Gliricidia sepium）、ベニゴウカン等  
20種以上。04年2月末現在で、植栽  
木の約70%が野火や乾燥、家畜の害  
などに耐えて活着している。

このほか、同事業初年度には2地  
域で育苗拠点づくりのための給水施  
設を整備し、第2・3年度には、各  
地の技術指導者兼住民調整員やMB  
Dスタッフなど関係者の能力強化研  
修を実施した。4年目になる今年度  
は、教会を通じた緑化事業のモデル



どこまでも続くスンバの荒れた丘

化、全対象地への育苗技術移転、薪  
炭材用樹木の植林推進、島の象徴で  
もある白檀の植林、住民組織の強化  
に取り組んでいる。

これまでの成果として、果樹の収  
穫による栄養改善や収入向上（特に  
バナナとカシューナッツ）、造林に  
よる生活環境の改善、緑化に対する  
住民の意識や参画の向上、植林・育  
苗技術の向上、指導者や運営者の能  
力の向上などが見られる。一部の事  
業地は、植林事業のモデル地として  
政府主催の研修の場に選ばれた。ま





ラン展（企画展示）



商連植林募金シール

## ●16年度企画展

| 事業名              | 開催期間        |
|------------------|-------------|
| 押し花&絵手紙展         | 3/30~4/11   |
| ペナン植物園パネル展       | 4/13~4/18   |
| 春の草花展            | 4/20~4/25   |
| ハーブ&スパイス展        | 4/27~5/30   |
| 板橋で見つけた小さな自然写真展  | 6/1~6/13    |
| 熱帯！お酒ワールド        | 6/15~7/19   |
| 夏休み！夜のジャングル展     | 7/21~9/1    |
| マレーシア展（開館10周年記念） | 9/4~10/3    |
| 夕焼けグラデーション 秋の華   | 10/5~10/24  |
| みのりの秋～お米展        | 10/26~11/28 |
| シクラメン展           | 11/30~12/26 |
| ラン展              | 1/5~1/23    |
| ちょこっとチョコ展        | 1/25~2/13   |
| 私が写した植物写真展       | 2/15~2/27   |
| あなたの夢かえなます       | 3/1~3/27    |

★東京都板橋区立熱帯環境植物館  
〒175-0082 東京都板橋区高島平8-29-2  
電話：03-5920-1131  
http://www.ecopolis.city.itabashi.tokyo.jp/nettai/  
休館日：月曜日（祝・休日の場合はその翌日）  
交通：都営地下鉄三田線「高島平」駅下車、徒歩7分

結果、平成15年度は7万人を超える入館者となった。その一例が、今年1月に行った「一見場違いな企画」と思える「真冬のお化け大会」。これは、昼と夜とは植物の雰囲気が違うことを知ってもらう目的で行った。植物好きな人だけを対象とするのではなく、一人でも多くの人に地球環境の重要性と熱帯植物の素晴らしさを認識してもらうことを第一に、直接、植物とは関係のなさそうなテーマでの企画も実施している。

16年度の事業（別表）では、「お酒」からみた熱帯植物と環境問題を取り上げ、運営には地元酒販組合の協力を得るなど、地域経済の活性化にも貢献する要素を取り入れて実施する。また、日本最古の熱帯植物の

## 森林保護活動

一つといわれている「お米」をテーマに、多様な切口で展示を行う予定。この他、講習会、講演会、ガイドツアーなども行っている。

来館者や市民に気軽に参加してもらえる熱帯林保護活動として、植林募金事業がある。以前は年2回程度、館内でのイベント時に緑化募金を行ってきた。昨年は館から外へ飛び出して街でアピールする方法に変え、パートナーとして商店街を選んだ。

板橋区は、マレーシアのペナン州立ペナン植物園との間で「友好提携に関する共同声明」に調印している。そこで、昨年8月から12月までの5カ月間、開館10周年記念ブレ事業として、板橋区商店街連合会との共催で「50万区民で守ろう！マレーシアの熱帯林」植林募金キャンペーンを

恒例のシクラメン展やラン展では、終了すると展示品は業者が持ち帰り、商品価値がないとして廃棄処分されていた。そこで業者と話し合い、展示終了した花を有効活用する「チャリティー即売会」を実施することになった。

文Ⅱ小岩正幸、大沢ひろみ（板橋区立熱帯環境植物館）

行った。区内の約3000の商店にペットボトル再利用の募金箱を置いての活動は、身近な商店が直接関わっていることもあって関心が高かった。異国間を結ぶ森林パートナーシップ事業としてはかなりの成果があり、募金総額は約78万円に達し、マレーシア大使館に寄付した。

## チャリティーに有効利用

①温室、ミニ・アクアリウム  
よくある温室のように世界中の熱帯植物を集めて個々に見せるのではなく、熱帯林の生態環境そのものをできるだけ忠実に再現することを目標としている。対象地域も、日本に近く密接な関係にある東南アジアの植生に限定し、植物相というマレーシア区域を中心とした植物約300種1400本が植栽されている。また、熱帯の生態環境をより幅広く紹介するために、地下1階に小規模な水族館を設け、東南アジア周辺に生息する海水魚、汽水魚、淡水魚約100種2500匹を飼育展示している。

②映像ホール、展示コーナー他  
地下1階に客席100のハイビジョン映像ホールがあり、環境に関わる映像を一定時間毎に上映している。常設展示コーナーは、熱帯環境に関する基本情報を提供する展示内容として温室への扉を開けると、熱帯

## ユニークな施設の 活動紹介

# 東京都板橋区立 熱帯環境植物館

## 都内で体験できる熱帯雨林環境

板橋区立熱帯環境植物館は、隣接する板橋清掃工場の余熱利用施設として、平成6年9月に開設された。「熱帯環境植物館」の名称は、熱帯の植物のみならず魚類、また映像や展示を通じてさまざまな熱帯環境を紹介し、さらに熱帯林の減少に関する地球環境問題も考えてもらう施設ということで付けられた。

## 施設の概要

魚の泳ぐ池の水面下から、マングロープをはじめ池の水際に植栽された潮間帯植生の姿を観察することができる。ここからゆるやかなスロープを巡り、植生の垂直分布にならって植栽された熱帯植物を観察しながら、2階レベルにある冷室（山地帯植生）に至る。なお、温室内にはマレーシアの熱帯雨林で録音された自然音響が流れ、熱帯環境をよりリアルに体験することができる。



温室全景

ここ数年、入館者は6万5000人程度で推移していた。リピーターを重要視するあまり、とすれば恒例化した企画展となり、新規顧客開拓がおろそかになってしまった。そこで事業の見直しを行い、その



シクラメン栽培講習会

## 事業の概要

ここ数年、入館者は6万5000人程度で推移していた。リピーターを重要視するあまり、とすれば恒例化した企画展となり、新規顧客開拓がおろそかになってしまった。そこで事業の見直しを行い、その





# ●ブルキナファソ● 広がる砂漠化に果敢に立ち向かう国

ブルキナファソという国

ブルキナファソという国の名を知っている人は多くないのではなからうか。西アフリカのサハラ砂漠南縁部サヘル地域に位置する国である。サヘルはアラビア語で「岸辺」を意



北部に発達した砂丘群。農地や居住地を飲み込もうとしている

味する。サハラの砂の海を越え、やつと多少なりとも緑のある岸に辿り着いたところから名付けられた。樹木が生えているといってもまばらであり、年間降雨量400mmに満たない乾いた土地である。

ブルキナファソは、マリ、ニジェール、コートジボアールなど六つの国に囲まれた内陸国。国土面積は27万平方km、人口は約1000万人で、日本の約3分の2の国土に12分の1の人口が住んでいる。主な産業は農業と牧畜業。金やマンガンなど鉱物資源も有しているが、自力開発は難しいのが現状だ。1960年にフランスより「オートボルタ」の国名で独立、84年に現名に改称した。

## 世界最貧国の一つ

11世紀にはモシ族の王国もあり、砂漠からの交易地として賑わっていたこの国は、現在、隣国のマリ、ニジェールや中部アフリカのチャドと

緑のサヘル研究員 野々山 富雄

並び世界最貧国の一つとされている。17世紀に始まる西洋諸国による奴隷貿易、それに続く植民地支配により、人々は人権蹂躪と経済的搾取に苦しんできた。そこに貧困の源があるのはもちろんであり、その傷跡は今もつて癒えていない。

また、砂漠を渡るラクダ交易が主流であった時代と違い、現代の世界経済システムにおける貿易で、海のない内陸国は決定的に不利である。

## 砂漠化の最前線

同国の貧困は、こうした歴史的・地理的悪条件に加え、押し寄せる砂漠化の波が追い打ちをかけている。

永い地球の歴史の中で、砂漠の前進後退は繰り返されてきた。だがそれは、あくまで緩やかな一自然現象に過ぎなかった。しかし近年の急激な砂漠化は、そうした自然の枠組をはるかに逸脱した人為的要因が大きい。砂漠化の原因としてはいくつか

に、世界の全人口の13%が暮らしていることになる。それは決して過剰な人口とは言えない。

ではなぜ、アフリカは依然貧しく、砂漠化の拡大を助長し続けているのだろうか。問題はあまりにも大きく、簡単にその答と解決策を見出すことはできない。だが実際にその最前線に入り、地元の人たちとともに活動していくことで、糸口を探っていくことができるのではないだろうか。

## 独立自尊の気概の国

NGO「緑のサヘル」はそうした考えのもと、92年からチャドで、96年からはブルキナファソにも拠点を置き、砂漠化防止活動を行っている。

砂漠化の問題を抱える多くの国々からブルキナファソを選んだのには理由がある。同国の自立意識の高さである。試行錯誤ながら他国の援助だけに頼らず、独立自尊の気概で自国の課題に取り組もうとしている。独立直後の国名オートボルタ（ボルタ川の上流という意味）から、現地の言葉で「高潔な人々」を意味するブルキナファソに改称したことからも、その意気込みを感じることができる。国民は概して勤勉で、環境劣

化などに対する危機意識も高い。

加えて、ブルキナファソは混乱の続くアフリカ諸国の中で治安はかなり良い。国民生活の安定と発展のために、それは不可欠な要素である。近年、日本の海外青年協力隊も同国に多く赴任し、活躍している。

政府による森林政策も非常に熱心で積極的である。伐採禁止措置をとるとともに、「80000の村に8000の森」をスローガンに植林を推進している。環境保全目的の植林のほか、アカシアの樹液から採れるアラビアゴムなど、経済性の高い生産物の増産にも力を注いでいる。

## ブルキナファソでの活動

「緑のサヘル」はこの国で、苗木を育てて木を植える植林部門、食糧自給を高めていくための農業部門、改良カマドの普及や炭焼きなどの適正技術部門を3本柱に、生活と環境の改善に多角的に取り組んでいる。

改良カマドは従来の熱効率の悪いカマドを改良し、薪炭の使用量を減らして森林伐採に歯止めをかけるものである。



畑づくり。女性たちは家事、育児、薪集め、水汲みと休む暇もない

私たちが92年に最初の活動地チャドで取り組みを始めた当時、ブルキナ・ミックスというブルキナファソ製の改良カマドの普及がすでに始まっており、大いに参考になった。ブルキナファソは改良カマドの先進国とも言えるのだ。

“Think global, Act local”という言葉がある。大きな視野のもと、地域に密着した地道な活動をバランスよく行っていくこと——それこそが私たちの目指す活動の基本であり、ひいては砂漠化という大きな問題が解決されるカギとなると信じている。



## 国際緑化に取り組む NGOの活動を支援します

### 平成16年度の国際緑化推進センターNGO支援事業

#### 助成申込み受付開始!

国際緑化推進センターでは、熱帯林の造成など国際緑化に関する実践的な活動を行っている林業NGOを対象に、活動促進のための助成申請の申込みを以下により受け付けます。

#### ◆支援対象事業

- (1) 国際会議等への参加  
わが国の林業NGOの熱帯林等森林の保全・造成を促進するための国際会議やワークショップ等への参加を助成します。
- (2) プロジェクト形成調査の実施  
わが国の林業NGOが熱帯地域等で新たにプロジェクトを形成するために行う調査を助成します。
- (3) カウンターパート受入れ研修の実施  
わが国の林業NGOが相手国のカウンターパートを受け入れて日本国内で行う研修を助成します。
- (4) プロジェクト現地指導の実施  
わが国の林業NGOが熱帯地域等で実行している緑化プロジェクトに対し、専門家を派遣して現地での技術指導を実施します。

\* 同一地域の同一事業で他の機関から助成を得ているものは対象から除外されます。

#### ◆申込み方法

応募様式は、当センターのホームページ (<http://www.jifpro.or.jp/>) から入手(ダウンロード)できます。郵送をご希望の方は当センターまでご連絡ください。  
 応募期間 平成16年4月1日(木)～5月14日(金)  
 決定通知 7月上旬(審査の際、ヒアリングを行う場合もありますので、あらかじめご承知おきください。)

#### ◆申込み・問い合わせ先

(財)国際緑化推進センター(担当:中山祐介)  
 〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル  
 電話:03-5689-3450 FAX:03-5689-3360 電子メール:yusuke@jifpro.or.jp

#### ☆緑の募金国際緑化公募事業による現地での緑化活動支援

緑の募金国際緑化公募事業につきましては、平成16年次も当センターにて申請の受付、一次審査を行います。公募の詳細は、4月下旬に当センターのホームページに掲載される予定です。応募様式はその際、ホームページから入手可能です。



## センター の活動

### CDM植林人材育成事業の国内研修会を開催

新たなCDM植林推進対策としてCDM植林を担う内外の人材を養成するために、第1回目の研修会を2月24日、26日、都内の会場で開催しました。国内から10名、海外から5名の研修生を対象に、CDM植林事業に関する最新の解説を含む講義等を行いました。

### 「吸収源CDM国際フォーラム」を開催

「吸収源CDM国際フォーラム」を2月26日、都内のホテルで開催しました。本年は、昨年より参加国を多角化し、わが国及びインドネシアの他にミャンマー、ベトナム、さらに国際林業研究機関であるCIFORからも講師を招聘しました。フォーラムでは、昨年12月のCOP9の

結果を踏まえ、それぞれの取り組み状況、確定したルールや今後検討される小規模吸収源CDMなどについて議論を展開。会場を埋めた参加者たちからも熱心な質問が出され、吸収源CDMの理解の促進、普及啓発、さらには早期実現に大いに資するものとなりました。(本誌3・4頁に詳細記事)

### 地域住民森林管理実証調査事業委員会を開催

地域住民森林管理実証調査事業(アグロフォレストリー型)の委員会を3月3日に開催し、事業実行状況、現地調査等について報告・検討を行うとともに、調査報告の取りまとめ方向を議論しました。

### NGO等植林活動部会を開催

NGO等植林活動部会とNGO関係事業連絡会の合同会議を3月2日に開催しました。会議では、センターの平成15年度NGO支援事業のほか、国土緑化推進機構による緑の募金国際緑化公募事業、日中緑化交流基金による日中民間緑化協力委員会資金助成事業について説明がありました。

した。また、15年度林業NGO等活動支援事業で助成した各団体担当者から案件の実施報告が行われ、続いて参加者間で助成事業のあり方とNGOの活躍について意見交換を行いました。

### CDM植林人材育成事業の海外研修「インドネシア西スマトラ州国際ワークショップ」を開催

新たなCDM植林推進対策としてホスト国でCDM植林を担う人材を養成するために、第1回目の海外研修を3月13日、14日、西スマトラ州プキティンギ市において開催しました。当地の副知事、市町村長、NGO等86名の参加のもと、当センターの講師などからCDM植林の仕組みについて説明しました。

### 熱帯林放棄バイオマス再資源化支援調査の成果に関する国際ワークショップをインドネシアで開催

熱帯林放棄バイオマス再資源化支援調査事業の完了に当たって、その調査成果を広く普及・活用するため、3月16日、17日、ジャカルタ南郊のボゴールにおいて国際ワークシ

ョップを開催しました。フィリピン・タイ・ベトナムからの来賓を含む55名の参加のもと、木酢液、木炭入り堆肥、木片セメントブロックなど、放棄バイオマス再資源化の具体例を含む調査成果を発表し、情報交換を行いました。



## 基金へ ご協力

熱帯地域の森林造成に役立てて欲しいと次のご寄付をいただきました。

◆(株)池田園様より、8万円のご寄付

◆松澤園芸様より、7000円のご寄付

◆小平市役所ごみ対策課内「地球にやさしい募金」様より、2万円のご寄付

●訂正とお詫び  
 前号72号で次の間違いがありました。訂正してお詫びします。  
 ★2頁ヘニューズ「右枠上段7行目「+11.1%」→「9%」↓(正)「4億2400万円(同89.9%)」



# 国際緑化推進にご参加ください

第14巻第2号（隔月発行）  
平成16年3月30日発行

編集／緑の地球編集委員会  
発行／財団法人国際緑化推進センター

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル3階  
電話 03（5689）3450 FAX 03（5689）3360

## 個人、法人の賛助会員を募ります

かけがえのない地球を「緑豊かな地球」として未来に引き継いでいく——私どもの活動に積極的にご参加ください。

◆会 費：個人 1口 10,000円（毎年度）  
法人 1口 100,000円（毎年度）

◆資 格：個人、法人、法人以外の団体、および地方公共団体

### ◆会員へのサービス

会員は、国際林業協力を推進するための情報提供、当センターが発行する出版物、および各種のサービスを受けることができます。

### ◆入会のお申込み先

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル  
財団法人 国際緑化推進センター  
電話／03-5689-3450 FAX／03-5689-3360

### ◆会費ご送金の方法

下記の銀行口座へお振込みください。  
東京三菱銀行 春日町支店／普通口座 0496575  
（財）国際緑化推進センター  
理事長 塚本 隆久

熱帯林は毎年1230万ヘクタール減少しています。いま、世界中の人たちが力を合わせ、熱帯林の保全と造成に取り組むことが緊急に必要です。

財団法人国際緑化推進センターは、「熱帯林が提供する豊かな効用を未来にわたり持続的に享受していこう」との理念のもとに、熱帯林の保全・造成をはじめ国際緑化推進のため次のような事業に取り組んでいます。

- これからの国際林業協力を担う人材の育成と確保
- 海外の森林、林業などに関する技術・情報の収集・提供
- NGO・民間団体などが行なう国際林業協力活動に対する支援
- 国際緑化に関する普及啓発および国際林業に携わる人たちの交流活動の推進
- 海外での植樹活動についてのご相談、ご協力

これら国際緑化推進センターの事業へ、国民の皆様、民間団体、企業などのご協力をお願いしています。



財団法人

国際緑化推進センター

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル

電話：03-5689-3450 FAX：03-5689-3360 E-mail：jifpro@jifpro.or.jp URL：http://www.jifpro.or.jp/